



共同代表の中原功寛さん（左）と島田裕太さん

廃校から産業創出へ

山鹿市鹿央町の旧千田小跡地に4月、産業創出と地域再生を目的にしたビジネス交流拠点施設「YAMAGA BASE（やまがべーす）」がオープンした。同小卒業生の中原功寛さん(37)が共同代表を務める企業が運営する。卒業後の25年間で市の人口が1万3000人以上も減少する中、中原さんは「担い手不足で産業が衰退し、さらに人口減少が進む負の連鎖を断ち切りたい」と意気込む。

山鹿・旧千田小卒業生の中原さんら
ビジネス交流拠点開設

「世界に羽ばたいて」



Wi-Fiなどの設備が整った「ワーキングスペース」の一部

施設は、鉄筋コンクリート2階建ての校舎などを改修。Wi-Fiや電源完備の「ワーキングスペース」（共同利用型の仕事場）のほか、動画配信や料理教室、チャレンジショップなどに利用できる3種類のスタジオ、29室の宿泊所、食堂、体育館などがある。交流ホールやレクリエーションスペース、運動場は地域住民に無料開放する。設計・施工をした商空間プロデュース会社「スペース（東京）」が、山鹿灯籠、来民うちわ、八千代座、山鹿温泉、装飾古墳など、地元の伝統文化や名所にち

なんだ内装を随所に施した。中原さんは市内の高校から米国の大学に進学。帰国後はベンチャー企業の創業、参画や農林中央金庫勤務、ハーバード大学院での経営学修士（MBA）取得などを経て2021年にUターンした。実家の農業を法人化する活動などをしながら、17年に閉校したままだった母校の跡地活用を模索。そんな時、同市鹿北町の旧広見小跡地に養蚕工場を構える「あつまる山鹿シルク」社長の島田裕太さん(44)と出会い、22年、共同で運営企業「やまがBASE」を設立した。旧千田小の土地敷地面積約3万平方メートルと建物を市から購入し、3月に新施設を完成させた。総事業費は約3億円。中原さんは「緑に囲まれた地方でも世界とつながれるし、世界最先端のことができる。ここで新しいことに挑戦し、世界に羽ばたいてほしい」と話す。問い合わせは、やまがBASE＝info@yamagabase.com（宮上良二）